

平成29年度
日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(平成28年度事業)

平成29年9月
日野市郷土資料館

目次

1	はじめに	1
2	評価の目的	1
3	郷土資料館の現状	1
	（1）組織と職員	
	（2）主な業務	
4	評価の実施方法	1
5	評価の対象	2
6	評価の結果	2
	事業別 郷土資料館事業評価表	4～17

参考資料

I	平成28年度 日野市郷土資料館の活動状況	18～28
II	日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱	29
III	第6期日野市郷土資料館協議会委員名簿	30

1 はじめに

平成 15 年以降、「博物館の設置及び運営に関する基準」に基づき、郷土資料館は事業の水準の向上を図り、郷土資料館の目的を達成するため、自ら評価を行い郷土資料館協議会の御意見をいただき、その結果を公表するように努めてきております。

さらに、平成 20 年の「博物館法」の改正により、郷土資料館の運営状況に関する評価として、「博物館は、運営の状況に関する評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない」とされています。

これらを受け、郷土資料館では、平成 21 年 3 月、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」を制定し、郷土資料館の運営状況に関する評価を実施しております。

2 評価の目的

この評価は、郷土資料館の運営状況に関する情報を、積極的に公表することにより、郷土資料館の利用者や関係者との相互の理解を深めるとともに、連携・協力を図り、郷土資料館の事業を推進することを目的とするものです。

3 郷土資料館の現状

(1) 組織と職員

組織；1 館 1 係〔資料館係〕

職員；5 人〔館長 1、係長 1、主任 2（学芸員）、用務主事 1〕

嘱託職員；3 人〔学芸員 2〕

臨時職員；1 人

(2) 主な業務

平成 17 年 4 月 1 日、ふるさと博物館から新たに生まれた日野市郷土資料館は、次の目的を達成することを目指して活動をしています。

- ① 歴史、民俗、自然等の資料の収集、保管及び展示に関する業務
- ② 資料の調査研究に関する業務
- ③ 資料の普及広報活動に関する業務
- ④ 学校教育や市民による自主的学習活動への支援の連携業務

4 評価の実施方法

郷土資料館では「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に基づき、毎年 1 回、

郷土資料館協議会へ運営状況についての自己評価を提出し、協議会の評価を併せて評価書としてまとめ、教育委員会へ報告いたします。その後、市民の皆様へ公表することとしています。

さらに、その評価の結果に基づき、今後の郷土資料館の運営の改善を図るために必要な措置を講ずるよう努めていきます。今回、取り上げた 10 事業のほか、郷土資料館の全体にかかわる意見を付加しております。

5 評価の対象

平成 28 年度の評価対象は、次の 10 事業について行うこととしました。

- No.1 郷土資料館協議会の開催
- No.2 学校教育との連携事業
- No.3 企画展開催事業
- No.4 幻の真慈悲寺調査事業
特別展「今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～」の開催事業
- No.5 歴史資料の調査・整理等事業
- No.6 資料整理・公開事業（マイクロフィルムデジタルデータ化）
- No.7 調査研究事業「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信
- No.8 七生丘陵の自然と歴史調査事業
- No.9 資料館講座・体験学習事業
- No.10 体験学習室の整備事業

6 評価の結果

平成 28 年度事業「日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価」の総括としては次の通りです。

No.1「郷土資料館協議会の開催」については、評価の結果を次年度の事業にしっかりと結び付け、各イベント等の実績報告等を取りまとめていかなければならない。

No.2「学校教育との連携事業」は連携学校数も増え、また幼稚園・保育園の利用もあり評価でき、今後の発展に期待するとの評価を得ている。

No.3「企画展開催事業」は、「日野の産業革命」定番の「どつき土器展」など地域に根差した展示は、興味深い。その他常設展室のより一層の充実が必要である。

No.4「幻の真慈悲寺調査事業」は市民と協働で 10 年、その集大成を特別展に結びつけたことは高く評価できる。やはり「阿弥陀如来像」が歴史館で市民が観覧できたことは圧巻であった。

No.5「歴史資料の調査・整理等事業」は、「地域博物館」としての大きな役割である地域資料の発掘・保存という重要な事業であり、その成果を広く市民へと周知していく必要

がある。

No.6「資料整理・公開事業」は、経年劣化が懸念されている「マイクロフィルムデジタルデータ化」など地道な事業であるが継続して進めていただきたい。

No.7「調査研究事業；勝五郎生まれ変わり物語の調査と発信」は、生誕200年記念事業として作成した「調査報告書」「ブックレット」の反響も高く、認知度も高まり、さらなる今後の展開に期待する。

No.8「七生丘陵の自然と歴史調査事業」は、「日野の自然」を地道に調査し、高幡不動駅コンコースでのパネル展が大好評で評価できよう。

No.9「資料館講座・体験学習事業」は、「どんど焼き」は地域の風物詩として地元に着定しており、今後展開される「巽聖歌」関係の調査・研究が期待される。

No.10「体験学習室の整備事業」は、天井高が高くなり、照明のLED化が完成し、収蔵量の増大と部屋全体が明るくなった。今後の整備も含め効率的な利活用が期待される。

以上、今回の評価においては協議会各委員から様々な評価をいただき、各事業の問題や課題が明確になり、今後の取り組みや方向性が明示された。

地域博物館の本来の役割を確りと自覚し、学芸員一人一人の日頃からの研鑽を積み重ね力をつけていかなければならない。

そのほかに、協議会委員から全体的なご意見をいただいていますので列挙いたします。

- ・会議では協議会委員から教育普及に関する意見が多くでしたが、教育普及を維持発展させていくためには調査研究が欠かせない。

- ・時代が想像もつかないくらいのスピードで変わりゆく中、郷土資料館において何年にも及ぶ地域の方々との調査研究やさまざまな普及事業が継続されているということは、何よりも意味深いことのように思う。その根気強い調査・事業によってこそ決して会うことのできない時代の人たちの思い、願い、知恵そして汗に私達は触れ合えるような気持になれる。

- ・郷土資料館を通して世代を超えた家族の会話が増え家族の生き方を認めあい、また同じ日野にすむ市民としてこの地で生きてこられたその時代その時代の人たちの努力と願いが、次の時代へと引き継がれることを心から願う。

- ・地域博物館の役割に資料の保存がある。農具を使った体験学習が盛んで好ましいのですが、保存する資料と使用する資料の区別をきちんと判別する必要があるだろう。市民協働による調査・研究活動や出張授業や体験事業など活発に行われており素晴らしいと思うが、いずれも学芸員による下準備が大きな位置を占め、また学芸員自身の研鑽が欠かせない。

評価対象となった各事業の自己評価及び郷土資料館協議会からいただいた評価及び意見は、4ページ以降の評価表のとおりです。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.1 郷土資料館協議会の開催</p>
<p>事業の概要</p>	<p>・日野市郷土資料館協議会は、博物館法および日野市郷土資料館条例により位置づけられている。郷土資料館の運営に関して、館長の諮問に応じ、館長に対して意見を述べる機関。学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者、並びに学識経験者、公募市民の10名で構成されており、年3回の会議を開催して意見を求めた。 ・また、「日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱」に従い、毎年資料館協議会の意見を聞きながら、事業評価を行っている。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>・協議会で検討し定めた資料寄贈寄託などの手順をもとに、資料受入などの手続きを試行した。 ・当館の運営状況の評価について意見を求め、結果は教育委員会に提出した後、市民に公表した。 ・委員を通して資料館活動や郷土についての考え方や思いについて聞くこともできた。 ・委員の専門性や人脈を生かし、講座・体験学習会の開催や調査事業などに際して情報提供、助言や協力をいただいた。 ・それぞれの立場からの意見を展示・講座などの事業に反映することができた。 ・賛否双方の意見を受けることにより、業務改善、士気が高まるなどの効果にもつながった。</p>
<p>協議会の意見</p>	<p>・各委員の異なる職種、立場からのアドバイスが効果があった。 ・協議会開催とその内容について評価し、評価結果を次年度の協議会運営に反映すればより有意義な協議会となる。 ・協議会にイベントの実施終了報告の場合は、アンケートの報告が欲しい。 ・協議会委員の意見を求める場合は、各事業について、種目別の実施回数と参加者数について、当年の実績のみでなく、前年の結果も加えて欲しい。前年比の数値だけで評価するわけではないが、要約された事業成果の報告文だけでは、どのように評価できるか、意見が出し難い。前年に対して増減が判れば、その原因から状況が理解しやすい。 ・会議の持ち方・進め方に今少し工夫が必要。</p>
<p>課題と改善策</p>	<p>・平成28年度は、委員10名のうち、3名が新規の委員だった。任期2年での再任や入れ替わりは、先を見据えて引き継いでいく必要がある。 ・委員退任後も講座の講師などで郷土資料館とのつながりを大切にしたい。 ・協議会にて得られたことを、資料館活性化のために生かしていききたい。 ・寄贈寄託などの手続きや収蔵場所不足の問題は、資料館の重要課題であり、問題点・課題点は精査し、協議会へ報告する。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.2 学校教育との連携事業</p>
<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の文化財を活用し、小中学生と幼稚園、保育園及び先生を対象とした文化財の啓発事業を展開する。 ・社会科見学や出前授業、見学会、職場体験などは、小中学校及び幼稚園・保育園の要望を取り入れた内容で行う。 ・授業で使う資料の相談やを受け資料提供を行ったり、見学地や人材紹介などをする。 ・当館で蓄積した画像データ資料などを、学校に提供してICT教育の教材として活用をはかる。 ・校長会で、学校での郷土資料館利用例や利用状況などを説明した。
<p>事業の成果</p>	<p><小学校の学習利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年国語「たぬきの糸車」糸車の貸出(5校)、3年社会科見学(13校)、社会「昔の道具と暮らし」出張(5校)、5年総合「稲の脱穀体験」(1校)、6年生社会「大昔の暮らしと火起こし体験」(2校)、郷土の人物や災害についての話など(7校)多様な利用があった。毎年利用している学校が多く見受けられる。 ・郷土の人物や過去の災害など増加傾向のテーマは、内容を充実させた。 ・農具体験を、安全で効率的に対応できる方法に改善した。 <p><中学校、幼稚園・保育園などの学習利用></p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学校は、4校から6校に増加した(職業3校、総合学習地域調べ3校)。 ・平成28年度は、幼稚園(2園)及び保育園(1園)が新規にあったほか、わかば教室や学童クラブの利用もあった。

協議会の意見

<利用者増・利用者層の多様化について>

- ・小・中学校の施設見学は前年度に対して件数・対象人数ともに140%、農業体験は件数140%、対象人数186%、出張授業は同120%、130%と増加しており、職員の皆さんの努力が成果になっており評価したい。
- ・幼稚園・保育園の利用も発生しており、今後の発展に期待する。
- ・連携学校数が増え、また、幼稚園や保育園の利用も増加したことを評価する。
- ・学習利用は今後益々増えると思うが、より一層の効果を図るため先生方への博物館活動の啓蒙が必要と思う。、幼稚園での事前の園児指導がより一層の理解効果を生んでいるという指摘があったように、大事である。教師の多忙はすでに指摘されているが、何とか事前指導の時間を作っていただきたいもの。
- ・小学校などが毎年継続して利用してくれるのは、その学年のカリキュラムに設定されているからと推測される。このカリキュラムに組み込まれるよう学校側に協力すれば、利用増加が期待できると考える。
- ・わかば教室、障害児学級、学童クラブ、高齢者の団体をさらに受け入れ、交流を深めてほしい。わかば教室に通う児童生徒の展示見学は、よその人とのコミュニケーションする大切な社会体験となる。高齢者・特別支援等多様な対応ができることはありがたい、PRしてはどうか。

<資料館へのアクセスと出張授業など>

- ・来館し易い学校とそうでない学校があり、学校行事での活動に限られるのが現実。学校へのお出張授業は成果があり、校長会等で小学生がどんな興味をもったかなど具体例を挙げて知らせると効果があるのではないのか。
- ・小学校3年はバスを借り上げて市内めぐりをする。資料館対応も年々グレードアップしており楽しみ、学校側では時間をもう少しとれればと思う。出張授業は昔の道具を手にとって実体験ができるのがありがたい。社会科見学バスの費用は市の予算に加え個人負担も徴収しているが、貴重な体験ができるので今後も継続したい。
- ・市のバスや企業の協力は得られないのか。
- ・資料館へまかせっきりではなく、先生が主導し先生とともに授業をつくっていったらよいのでは。
- ・学校公開時の外部講師による授業は保護者にも好評で、親子で聞いた授業を家庭で話題を共有できるという面もある。
- ・好評の農具体験は、効率的で安全なシステムを確立し、さらに充実させる。子供用の農具の説明板やカード等の解説を整備してほしい。

課題と改善策

- ・学校などからの学習利用は増加傾向にあり、テーマも多様化している。事前打ち合わせをしっかりと上で、学校側の希望に沿える形でオーダーに応じていきたい。
- ・ICT教育、学習指導要領の改訂や社会情勢の変化なども踏まえた対応が必要である。
- ・教育センターの郷土教育推進研究委員会とは引き続き連携・協力して進める。
- ・需要の多いテーマの教材や資料をまとめて安全で効率的・効果的に行える事前準備を行う。
- ・地の利の悪さを補い、かつ実体験を伴う学習素材を提供するためにも学校や現地に出向くことが重要。
- ・勝五郎の子供講座の例では、夏に2校の小学校をマイクロバスの集合場所に設定するなど、マイクロバスを用いて普及活動を実施している。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.3 企画展開催事業
事業の概要	<p><郷土資料館企画展示室ほか館内展示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・どつき土器展—初公開 万願寺・石田・上田の出土遺物— 会期 4月23日～7月10日 ・七生丘陵ハイキングコース 今・昔/ミニ土器展 会期 7月16日～10月23日 ・日野の産業革命 ～レンガ・ビール・養蚕～ 会期10月29日～4月16日 <p>資料館1階廊下に『稲生物怪録絵巻(いのものものけろくえまき)』などを展示</p> <p><パネル展ほか館外展示></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベントなど:平山季重まつりパネル展(平山小学校)、桑ハウス公開資料展示(仲田の森蚕糸公園)、たきび祭でのパネル展(旭が丘中央公園) ・パネル展「ピンヘット山と外来生物」(京王線高幡不動SC南北通路) ・百草・倉沢地区の歴史野外パネル展(京王百草園) ・七生支所にて各テーマのパネルを提供し、ミニ展示を実施。
事業の成果	<ul style="list-style-type: none"> ・郷土資料館企画展など館内展示で合計1,776人の観覧者があった。 ・「どつき土器展」では毎年恒例の開催となり、関東考古学スタンプラリーに参加するなど他地域からの見学者もあった。 ・パネル展「ピンヘット山と外来生物」は、高幡不動駅通路ということもあり、不特定多数の見学者があった。 ・「日野の産業革命 ～レンガ・ビール・養蚕～」は展示テーマに興味をもつての見学者もあり、熱心な質問を受けることもあった。 ・土器展、産業展にて未公開の資料を展示した。 ・企画展示室に入館者数計測装置を設置し、見学者の状況を把握した。

協議会の意見

<観覧者数>

- ・企画展は全体で見ると、昨年度とほぼ同じ件数、観覧者総数であった。
- ・土器展、七生丘陵・ミニ土器展はともに週当たり約40名の観覧者で前年度の20-25名/週に比べ倍増しており、成果が上がっている。ともに土器の展示がかかわっており、実物の展示は観覧者の興味をそそるようだ。

<展示内容など>

- ・「レンガ、ビール、養蚕」など日野市の特色となる展示をこれからも実施してほしい。
- ・日野の産業革命とはオーバーなタイトルだが、全国巡回の「発掘された日本列島2016」展(文化庁他主催)に山口ビールが出品され、日本中にPRできる展示とリンクして地元でも見られる機会となった。
- ・産業革命展などは日野の地域に根差した資料の紹介となっており、優れたものといえる。
- ・毎年恒例の土器展では、今年の特長や今までの蓄積がアピールできるのではないかな。
- ・資料館に来館できる児童生徒は地域限定かもしれないが、夏休み期間の展示なので、自由研究や工作で土器を作成し、成果を学校に持っていき、その後には子供の土器を展示するなどしてはどうか。
- ・土器製作などは、実施したくても実際の対応が困難であり悩ましい。
- ・企画展の開催事業が多いことに驚く。「どっき土器展」を楽しみにしている人も増えていることを実感している。
- ・毎年開催されている「どっき土器展」は、毎年積み重ねてきてどのように内容を更新・発展させているのか、調査研究の深化を記してはいかがだろうか。
- ・折角骨折った展示をリーフレット化して残すべきである。
- ・展示については、模型、映像、図表等を活用し、より具体的に理解できるよう工夫してほしい。
- ・日野の歴史を一望できる通史展がないのが残念。
- ・通史展がないことが毎年課題となっている。ふるさと博物館の時代には昔話・野鳥・伝統漁法もかつてはいつでも見学ができた。
- ・考古・歴史・民俗・自然等の常設展示室の一層の充実化が必要。パネル展示など館外展示の活用は、工夫の表れで評価できる。
- ・高幡不動駅通路のパネル展は好評である。中央線日野駅の通路でもできないか検討し、実施してほしい。
- ・ピンヘッド山の看板は中央線から見られた。日野駅や豊田駅にワンポイントの博物館があるとよいのでは。電車ののったらこれが見られますというわくわくするPRがあってもよいかも。

課題と改善策

- ・来館者が希望する展示テーマがない場合がある。
- ・各企画展の開催を行いながら、日野市の通史や基本事項を蓄積し、常設できる展示や教材をまとめていく。民具や自然の展示室の充実もあわせてはかる。
- ・パネル展などで他地域での展示を行う。HPにて日野市の郷土について発信をする。ツイッターを用いて展示開催や講座の実施など手軽に情報を発信する。
- ・対面で伝えるとおもしろさが伝わる。
- ・展示内容をパネル・映像・冊子化して残して活用できないか。
- ・来館者の反応や問合せ内容などから、市民の興味感心のあるテーマをさぐる。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.4 幻の真慈悲寺調査事業 特別展「今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～」の開催事業</p>
<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・中世の大寺院「真慈悲寺」を中心に、百草・倉沢地区の歴史と文化について調査、研究を行い、広く一般へ日野の文化財を周知することを目的とする。市民協働で調査研究を行うことで、自らが日野の郷土史を学ぶという生涯学習活動を推進した。 ・調査の成果は特別展「今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～」9月17日～11月20日(会場:新選組のふるさと歴史館)に反映した。
<p>事業の成果</p>	<p><特別展示の開催></p> <ul style="list-style-type: none"> ・この10年間の真慈悲寺調査の総まとめが特別展に集約された。 ・百草八幡神社の協力を得て伝来の国指定重要文化財阿弥陀如来坐像を公開した。 ・郷土資料館主催の特別展としては過去最多の3,233人の来館者があった。 ・真慈悲寺調査のボランティアが解説ガイドを実施し、来館者が気軽に地域史を語り合える稀有な展示空間となった。 ・講座2回、①「霊場真慈悲寺の誕生—中世東国における信仰と救済—」、②「11世紀の真慈悲寺—前九年・後三年の役における僧長厳の役割—」を開催し169人の参加があった。②では真慈悲寺調査ボランティアが講師を務めて真慈悲寺の歴史を100年遡らせる貴重な提言をおこなった。 <p><調査研究と普及活動など></p> <ul style="list-style-type: none"> ・真慈悲寺に関わるあらゆる内容(発掘・文書・金石・自然環境など)について様々な視点から調査・研究を行った。 ・京王百草園にて梅まつり開催時にパネル展示と解説ガイドを実施した。 ・ボランティアの市民、神社氏子会、調査地の所有者である(株)東京電力や、(株)京王といった地元企業と協力して事業を推進した。

協議会の意見

<特別展示>

- ・真慈悲寺展は市民共同の成果を展示にまで繋げたものとして高く評価できる。課題にあるよう、地域の歴史素材としての活用の工夫が望まれる。
- ・10年間の総まとめとしての特別展開催で、しかも阿弥陀如来坐像実物の公開は圧巻であった。関係者の大変な努力の賜で拍手を送りたい。
- ・真慈悲寺調査と特別展は本当に素晴らしいものであった。今後も真慈悲寺のPRを積極的にしてほしい。
- ・百草八幡の「重要文化財指定阿弥陀如来坐像」を市民にさらに知らしめてほしい。1年に1回程度、新選組のふるさと歴史館で、背中の銘文も読めるよう展示してほしい。また、日本歴史上の位置づけや学術的な価値を市民に啓発する努力を継続してほしい。
- ・観覧者数については、開催期間の週当りで調べると360人/週(3,233/9wk)で、前年度の「ほどくぼ小僧～展」の350人/週(2,800人/8wk)と大差ないようだ。

<学校など普及活動>

- ・学校での真慈悲寺の普及は、中学校では副読本に紹介されているが、作りこんで授業に取り上げられるとすればよほど勉強している場合である。
- ・平山季重はある程度浸透しているが、ここ10年の新しい史跡については資料を印刷物で整えていく必要がある。七生丘陵全体が平山季重に関わる出城のようなことも考えられ今後が期待される。
- ・重要文化財が日野市にはある。市外・国内外、学会でどのように真慈悲寺が注目されているのか知りたい。

<調査活動・パネル展示>

- ・調査事業については前年度に比べ、動員人数が2割減っているのに、調査回数は1.5倍も行っており、少数精鋭での努力がうかがわれる。
- ・ボランティアも10年たって高齢化が進み、語る方をつなげていくことが必要。
- ・百草園の林の中でのパネル展示では、多くの人が興味深く見学していた。この場所に大昔に寺院があったことを実感できる。

課題と改善策

- ・10年間の調査研究により、真慈悲寺が百草の地に存在したことが明らかになった。今後は、日野の中世を語る最も身近な歴史素材として、高幡不動や平山季重と共に日野の子供達はもとより、多くの人に語り伝えられるように普及活動を強力に進めていく必要がある。長らく調査研究活動に携わってきた調査ボランティアの今後の活躍が大いに期待される。
- ・博物館での展示は意義あるが、百草の中心地で、調査を行った市民自身が思いを込めて語ると素晴らしさが見学者に伝わり、文化財保護につながる。
- ・現地イベントや梅まつりなど、地域博物館ならではの強みを生かした現地での活動を行い、真慈悲寺を語り継ぐ活動を継続する必要がある。
- ・史跡指定を目指してはどうかという話もあるが、調査成果を見直し整理する機会となり、見えてくるものもあるのではないかと。
- ・教育センターが作成する学校向けの七生地域の副読本に真慈悲寺を取り上げる
- ・百草で発掘された5,000点規模の中世瓦の出土は都内でもなく、中世瓦研究会を立ち上げて関東一円で比較調査してきた結果、研究者に浸透している。しかし、一般にはまだまだ一般の人には知られていないので、市内の児童生徒には歴史の授業で学ぶ鎌倉幕府の項目の中で、当時の地域史の生きた教材として真慈悲寺伝えていくなど、今後の普及活動を工夫してゆく必要がある。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.5 歴史資料の調査・整理等事業</p>
<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の古文書の整理、目録作成、補修、撮影を行ない、保存のための手段を講じる。 ・古文書を解読し、展示などに利用するほか、印刷物として刊行し、広く市民の利用に供する。 ・古文書を利用した講座や絵図を用いた見学会を開講し、古文書に対する市民の理解を深め、古文書を読み解く楽しみを広げる。 ・古文書等歴史資料整理編集委員会を年3回開催し、委員の意見を参考にして上記の事業を行う。
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の調査・保存のため、川辺堀之内M家などの古文書の現況確認や未整理の資料の目録作成、一部撮影を行った。このうち、南平S家から寄贈を受けた。 ・前年度に実施した豊田旧名主家の緊急文化財調査に引き続き、未調査の古文書の整理を「日野の古文書を読む会研究部会」の協力を得て20回実施し、未表装の掛軸など約400件を確認し、延べ111人の参加者があった。 ・『千人同心関係史料集』刊行のため、市域の千人同心関係文書の解読・編集を64回行ない、「日野の古文書を読む会研究部会」のボランティア延べ458人の参加者があった。 ・平成29年に日野用水開削450周年を迎えるにあたり、日野市域の用水についての講座を開講し、マイクロバスを利用して取水堰などを見学した(24人参加)。また、「古文書で学ぶ日野の用水」という講座を全6回で実施し、市内在住の高校生を含む延べ154人が参加した。 ・「大正15年日野町全図」の裏打ち修復を委託にて実施した。

協議会の意見

- ・古文書調査は地味な内容であるが郷土資料館として大切な仕事である。成果を公表することも積極的に進めてほしい。
- ・地域博物館の大きな役割である地域資料の発掘・保存とし評価。地味な活動になりやすいが大事なもの。古文書を読む会との市民協働としても評価できる。
- ・「大正15年日野町全図」は大変貴重な歴史資料だと思う。修復とともに今後の活用を図るため、デジタル化をして当時の日野の様子について伝えてアピールしては。
- ・古文書は市にとっても貴重な文化遺産である。その整理は大変な労力と推察する。山口家文書の整理、緊急調査の鮫陵源、南平S家など次々と緊急調査が発生し大変であろうが、頑張ってください。
- ・古文書の膨大な件数に驚く。今後さらに発見されるであろう。専門の学芸員を増員し古文書の整理・解読作業を継続してほしい。
- ・古文書で学ぶ日野の用水関係講座が7回も実施された。内容の濃い有意義な講座だったであろう。参加できなかった市民向けに印刷物、あるいはホームページからPDFファイルで取り出せるようにしていただけるとありがたい。
- ・次年度刊行予定の『千人同人関係史料集』は60回以上の解読と編集作業でまとまりつつあるとのこと、期待したい。

課題と改善策

- ・引き続き古文書の現況調査事業を、安定して継続させる。散逸が心配される古文書は緊急に保護できるようにする。代替わりや文化財に対する意識も変化してくる中、所蔵者をはじめとする市民に古文書への理解を深めてもらうための活動を行う。
- ・資料の保存や展示のために、必要な修復を検討し、未撮影の資料を順次撮影する。特に専門家への依頼が必要になる、大型の資料や特殊な資料の撮影を進めたい。
- ・解読したものは順次公開をめざしており、日野市域の『千人同心関係史料集』刊行を29年度予定で準備中である。
- ・日野市所蔵資料など権利関係が難しいものは、多くの方に利用できる形に整えたいが未整備である。
- ・区画整理や代替わりなどで家や蔵が壊される現状での対応は、職員だけでなく、市民の協力を得ながら行えるよう市民に理解を求められるよう広報活動もおこなっていく。
- ・資料所蔵者が資料に興味を持ち大切にしようという気持ちにつなげるためにも、事後の報告や関係づくりなどをしっかりと行う。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

事業項目	No.6 資料整理・公開事業(マイクロフィルムデジタルデータ化)
事業の概要	<p>・古文書等歴史資料が撮影されたマイクロフィルムをデジタルデータ化し、パソコンで画像を検索利用できるようにするもの。</p> <p>・現在、郷土資料館には、昭和46年から市史編さん事業およびふるさと博物館において撮影した35mmフィルム358巻と、16mmフィルム64巻が保管されている(16mmフィルムは35mmフィルムの倍のコマ数がある)。マイクロフィルム専用読み取り機やその付属品は年々生産中止になっており、フィルムのままでは利用が困難なため、デジタルデータに変換しパソコン上で利用できるようにする。その際、目録もあわせて電子化し、画像検索が迅速に行われるようにするシステムの構築を目標とした。</p>
事業の成果	<p>・古文書資料を撮影したマイクロフィルムから、南平T家文書など約23,000コマ分をデジタルデータ化し、あわせて電子検索性目録を作成した。</p> <p>・事業の早期完了を目指して、予算額も昨年度より微増した。平成19年度の事業開始から10年間でフィルム全体の約58%のデータ化が完了し、残る35mmフィルムは74巻、16mmフィルムは64巻となった。</p> <p>・「古文書講座」の教材や展示の資料選択に、また、市民からの閲覧や他の博物館からの問合せ等に答えることができた。</p>
協議会の意見	<p>・マイクロフィルムのデータ化は、予算を増額大分進んできたが、まだ58%と半ばである、今後も加速して進めてほしい。</p> <p>・映像資料は、古くなったものは劣化してしまう。なんとか生き返らせる。フィルムそのものが劣化するので対策が必要。ガラス乾板なども劣化するものなので悩ましい。</p> <p>・市内企業の助力を得てはどうか。</p> <p>・デジタル化が順調に進んでおり、現在目標の60%が完了とのこと。年約10%の進行状況でピッチが上がっているが、まだ後4-5年かかるようだ。助成金などを得て1年でも早く完了したいものである。</p> <p>・PCのOS(windows)のバージョンに影響されない閲覧システム構築も進めて欲しい。</p>
課題と改善策	<p>・マイクロフィルムの約半分がデジタルデータ化されたが、フィルムの劣化は年々進行するため、引き続きフィルムの状態が少しでも良い内にデジタルデータ化を完了させたい。</p> <p>・事業開始から10年たち、この間に、過去データと新規データの統合に不具合が生じやすい、未撮影の資料も多くそれらは目録も電子化されていない、など新たに問題点も見えてきた。さらに、現行のOSが使用できなくなった場合に、検索のためのシステムに不具合が生じてしまう。今後新たなシステムの構築を考えてことが継続する課題である。</p> <p>・市史編さん時に未撮影の資料もまだまだ多いため、新規調査の資料とともに機会あるごとに、撮影またはスキャナ入力にてデジタル記録をしている。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.7 調査研究事業 「勝五郎生まれ変わり物語」の調査と発信</p>
<p>事業の概要</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に残る生まれ変わり伝承の調査・研究・普及事業を、市民参加の調査団を結成し行う。 ・総会、例会、公開講演会、記念日イベント、出張展示・講座、調査活動その他の活動を行い、延べ35回、調査団参加者257人、一般参加者1,084人、総参加者数1,351人。 ・普及・啓蒙活動—公開講演会(5月15日 田村正彦氏—明治大学講師—「子供の魂の行方—生まれ変わりと六道輪廻—)・夏休み子ども講座(7月24日「探検！高幡不動尊と勝五郎生まれ変わり物語」)・藤蔵勝五郎生まれ変わり記念日イベント(10月10日 東雅夫氏—「幽冥文学談義—平田篤胤から水木しげるまで—)、大学でのゲスト講師(明星・多摩大学)、ゆかりの地見学依頼などを行なった。 ・調査・研究活動—勝五郎の地道な身内調査、函館調査(2回)ほか、勝五郎親子を取り調べた中野村領主多門傳八郎について。
<p>事業の成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・研究者の来訪・各種取材依頼・勝五郎をテーマに作品を執筆したいという童話作家からの協力依頼・ホームページへの転載依頼などが相次ぎ、平成27年度の勝五郎生誕200年記念事業・ホームページ・ブログの立ち上げ、報告書・ブックレットの刊行の影響と効果を実感した。 ・函館調査では、勝五郎の妹「つね」の一家が函館に渡ったことの確証が得られ、多門傳八郎の菩提寺(新宿区法正寺)の調査で過去帳の閲覧をさせてもらい、消息のわからなかった多門傳八郎のことが少し解明され、子孫の存在や、甲府勤番を務めていて甲府で亡くなったことなどが判明した。 ・子ども講座に参加した子どもが、家族をゆかりの地へ案内する事例もあった。
<p>協議会の意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・勝五郎の生まれ変わり話は大分認知度が高まり、集客数もすばらしい。今後は、浅川以北の認知度を高めるように努力してほしい。 ・出張授業が大学まで(明星大、多摩大)発展しており感心する。 ・市内小中学校向けも増やして欲しい。どんな科目で授業に取上げてもらえるか、先生方の意見を集め研究して欲しい。 ・生誕200年記念事業による報告書やブックレットの刊行で、研究者からの注目、取材の増加、HPのリンク(転載)要望など反響が出て来ており、喜ばしく評価したい。 ・調査が函館まで広がり、活動の成熟期を感じる。これからはテーマ周辺の地道な検証、関連情報の発掘などになる。 ・生まれ変わり展は市民協働による調査研究・展示例とし、延年開催横浜市歴史博物館の鶴見川展と共に全国的にも代表例といえよう。その成果を今後活かし続けるためにも継続調査と発信は欠かせないと思う。 ・調査団の追究意欲には感心させられる。北海道まで調査が広がったことで日野から全国に発信できると感じた。成果を次回の特別展で発表してほしい。調査団の高齢化対策として、広報で呼びかけたり、中央大学・明星大学にも働きかけメンバーの若返りを図ってほしい。
<p>課題と改善策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・発足12年目を迎えた調査団は、メンバーの高齢化が進み、様々な理由で活動を継続できない人も出てきている。組織の新陳代謝を図るとともに、ボランティアなどで若い人たちの応援も得て、次世代への継承へつなげていきたいと考えている。 ・事業への参加を契機に、若年層の活動参加をうながす。

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.8 七生丘陵の自然と歴史調査事業</p>
<p>事業の概要</p>	<p>・七生地域を中心に、自然と暮らしの結びつきや、地域の歴史などの分野にわたるテーマで調査を行い、展示や見学会などを開催して地域の魅力を伝えていく。七生丘陵調査団の市民メンバーで積極的に活動を行った。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>・市民が自主的に興味をもったテーマを設定し資料館と連携して調査を行なってきた。生涯学習の機会を提供した。また市民目線で、自ら調査したことや発見したことの面白さや魅力を実感をもって伝えることができた。自然班、歴史班とそれぞれのもつ興味で班を分けての活動もあった。調査団員の活動は73回、延べ349人。</p> <p>・丘陵散策コースを中心に動植物の写真を撮影し記録した</p> <p>・散策コースなど昔の写真などに写る情報について調査した。</p> <p>・京王線高幡不動SC南北自由通路において、パネル展「ピンヘッド山と外来生物」を開催した。パネル展示を見学した多くの通行者の数は計測できず、確認人数316人は一部に過ぎない</p> <p>・体験講座「日野市・八王子市 市境を歩こう」を開催した(一般参加者34人)。</p>
<p>協議会の意見</p>	<p>・調査成果をまとめることは興味深い。野鳥など自然系の調査報告は、データベース化するとデータ一覧表だととっつきづらい場合がある。より広く知ってもらうためには、調査活動そのものもあわせて報告するとよいのではないか。10年の調査を行うと、その場所の変化も盛り込むことができ、より多くの人に調査してきたことが伝わるのではないか。</p> <p>・七生丘陵の素晴らしさを発信する企画が多く、市民に期待されている。今までの多くのデータを本にするかHPで公開してPRするとさらによいだろう。</p> <p>・調査活動は73回、延べ350人の参加で、昨年度(90回、426人)に対し約80%の活動であった。</p> <p>・三多摩の地域博物館で自然科学担当の専任学芸員を置くところは少なく、その意味でも成果を期待する。これも市民協働の最適例。</p> <p>・京王線高幡不動駅南北通路でのパネル展は、前年度の「七生丘陵～昔と今」に続いて「ピンヘッド山～」であったが大変好評であった。</p> <p>・パネル展では実際にこのような植物があると知ることができる。</p> <p>・ピンヘッド山は興味深い。外来種は駆除せよともいうが、外来植物が意外に多くあったと知ることができた。</p> <p>・パネル展示開催中の案内表示がほかの場所でもあったらよい。</p> <p>・観覧者数を知るために、事前に決めた時刻毎に会場の状況をカメラで撮影し、どれくらいの観覧者数かを推定するなど、何らかの方法で概略の観覧者数をつかむ方法も研究されたい。</p> <p>・パネル展の内容をプリント冊子にして、市内の図書館分館に配架する計画とのこと、ぜひ実施いただきたい。</p> <p>・高幡のコンコースだけではもったいない展示。市役所などでやったのか。本やリーフレットに仕上げてもらいたい。</p>
<p>課題と改善策</p>	<p>・引き続き、長期的に調査情報を蓄積し、公開や利用を考えた上での基礎データの整理作業に時間をあてる必要がある。調査団の10周年を迎える平成31年に向けて、具体化していく。</p> <p>・七生丘陵調査団のメンバーがもつ能力を生かし、見学会や勉強会などで広く市民へと伝えていく。</p> <p>・パネル展の内容のプリント製本して図書館に配架するほか、パネルの再展示の機会をつくり、成果の有効活用を図る。</p> <p>・高齢化にともない調査団の参加者数が減少傾向にあり、活動内容の検討や新規メンバーの呼びかけなども検討し、事業維持を図る。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.9 資料館講座・体験学習事業</p>
<p>事業の概要</p>	<p>・大きなイベントでは、どんど焼き、たき火祭りでのミニ展示や講座を行った。また、「日野用水開削450周年」を前に市内の用水の歴史を学ぶ村絵図講座、古文書講座、「八王子・日野の市境を歩く」や古い農具を使った体験講座、伝統行事である「どんど焼き」、「化石でたどる大昔の日野」や「石田散菓を作ろう」といった体験学習会を通して、日野の自然や歴史・文化を学ぶ機会を提供した。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>・たき火の作詩者巽聖歌の出身地岩手県紫波町と日野市は、平成29年1月に姉妹都市となった。たき火祭りといったイベントや当館の展示や講座、地域での継続的な活動が自治体の縁をつないだ。 ・村絵図や古文書で用水を学び「日野用水開削450周年記念」に向けて下準備ができた。 ・「八王子・日野の市境を歩く」では日野の自然や歴史を体で感じながら学ぶことができた。 ・石田散菓作り、正月飾り作りや、地域に密着したどんど焼き等の講座・イベントの実施により日野の郷土に残る文化、風習の伝承を図ることができた。 ・市民団体「程久保グループ」の協力を得て、農業体験の実演や農具体験及び民具等の整備を行った。 ・講座・体験学習・イベント参加者は総数2,199名を数えた。</p>
<p>協議会の意見</p>	<p>・農業体験に使用できる資料は完全なものが少なく、修理が必要であり、使える人が少なくなっているためどのように対処していくのかが問題となる。また、展示でも不完全なものを展示することになる。 ・使ってみないと体験学習の意味がない ・脱穀などの実際作業に危険を伴うので安全確保の問題がある、 ・種々のイベントをこなし、集客率も高まってきた。郷土資料館の存在を積極的にPRしてほしい。 ・イベントのどんど焼は前年の2倍(1,003人)の参加者で盛況であった。 ・どんど焼のやぐらの作り方、実施の作法などは、現在の指導者に手伝ってもらえなくなると継続実施が困難になる不安と後継者不足は各所で問題になっている。また作り方や作法には地区による違いもある。素人撮影でよいので、ビデオでの動画記録を残しておき、資料としての生活記録を兼ね、その行事の実施マニュアルにするなど考えたい。 ・紫波町との姉妹都市締結は喜ばしい。今後の交流がどのように展開するか期待したい。 ・夏休みや冬休み、春休みに親子旅行「遠野物語の旅」などを旅行会社と郷土資料館で企画出来ないものか。 ・体験学習は出来るだけ地域での仕方を活かした形で実施していただければと思う。 ・岩手県紫波町との交流を発展させてほしい。将来、小中学校の移動教室先とし、お互いの歴史・自然・文化・産業を学ばせ、体験学習も実施したい。</p>
<p>課題と改善策</p>	<p>・紫波町・日野市の姉妹都市盟約締結後はさらに交流が活発になることが見込まれる。 ・定番の講座の継続と新企画を検討する。 ・どんど焼を継続するためには、やぐら作りの担い手と技術継承体制を整える必要がある。 ・体験学習室を整備し、農具等の学習利用をしやすいように配置し、説明資料なども整える。 ・企画展示、季節、夏休みなどに合わせた体験学習会を開催する。 ・職員も実際の農具体験の経験がない。映像で補うこともある。 ・農具体験のための修繕部品の入れ替えで済むというものでもない。 ・すべてを知っていない人が修理することも難しい面がある。</p>

郷土資料館の運営の状況に関する評価表

<p>事業項目</p>	<p>No.10 体験学習室の整備事業</p>
<p>事業の概要</p>	<p>・整備事業3カ年計画最後の年、平成28年度は体験学習室の部分改修を行った。 行った部分は天井部で、凹凸のあった天井をフラットにし、照明器具を蛍光灯からLED蛍光灯に交換した。また改修に伴い民具の整理をした。</p>
<p>事業の成果</p>	<p>・天井をフラットにすることで、照明器具を天井に直に取り付け上部空間を広く利用することが出来た。 ・蛍光灯の安定器も永年劣化で蛍光灯がチラつき室内も薄暗かった。LED照明器具に交換したことで、省電力で安定した明るさで作業も安全に行うことが出来る。 ・民具を整理して種類別にまとめることが出来た。</p>
<p>協議会の意見</p>	<p>・体験学習室の整備がなされたことは、狭い展示室を補うもので、評価できる。今後の利用に期待したい。 ・施設条件が恵まれない中の整備事業はご苦労様。3カ年計画最終年とのことですが、今後とも何らかの形で続けたい。 ・昔の道具が多く整理の困難さがわかった。八王子でも学校にある昔の道具が劣化していった。もしかしたらクラシックカーを維持しながら残していくことのように資料館が機能していると感じた。使用可能な状態で残していく限界もあり、絹の道資料館のように映像で残すという方法もある。 ・残す資料と残さないものを見極めをつける必要がある。 ・例えば正月の一部屋(昭和・戦後など)を作り、お雑煮を食べたり、ラジオを聴いたり、昔の雰囲気を楽しめるようにしてはどうか。親の小さい頃とか、お盆の頃はこのような飾りをしたというように季節を味わえるものがあったてはよいと思う。子供と大人が対話できるのでは。 ・昔の生活を復元し、認知症など対策に役立てる回想法に取り組む人もいる。</p>
<p>課題と改善策</p>	<p>・室内の整備を引き続き行い、保管中の資料やパネルなどを効率的に有効活用できるように整備する。 ・部屋の活用方法についてより具体的に検討し、継続的に機能を維持できるように努める。 ・収蔵機能を体験学習室に頼らないよう、郷土資料館内外の収蔵場所の確保や空間利用を検討する。 ・民具を用いた体験的な学習や資料の活用と保存についていただいた意見は、収蔵展示室や学習会など館全体の事業に生かしていきたい。 ・開館当初は「体験学習室」として体験学習の場所として開設されたが、収蔵資料の増加にともない、学習会の開催は困難となった。今回の改修を契機に、収蔵、資料公開、調査保存作業など、多様な活動に対応できる空間を整えていく必要がある。 ・資料はこの先いずれ劣化していくことは避けられない。資料は死蔵せずに保存・活用していく。</p>

<参考資料>

I 平成28年度 日野市郷土資料館の活動状況

1 郷土資料館協議会

日野市郷土資料館協議会は、博物館法第20条第1項に基づき置かれ、同第2項に、資料館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。また、日野市郷土資料館条例第9条に、協議会委員は教育委員会が任命し、委員の定数は10名以内となっている。なお、委員の任期は同第10条に2年となっている。

(1) 協議会委員名簿 第6期委員

氏名	主な活動分野
◎杉浦 忠機	社会教育の関係者（自然環境体験指導）
○小杉 博司	学識経験者（郷土教育研究）
上野 さだ子	学識経験者（歴史・古文書研究）
秋山 譲児	学校教育の関係者（平山中学校校長）
池田 泰章	学校教育の関係者（仲田小学校校長）
平 自由	社会教育の関係者（考古学・博物館学）
畠山 豊	社会教育の関係者（民俗学・博物館学）
保坂 一房	学識経験者（多摩の地域史研究）
都 美里	公募市民
山口 久夫	公募市民

◎委員長 ○副委員長 任期 平成28年3月4日～平成30年3月3日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7月6日	郷土資料館	1 委嘱状の交付 2 (報告事項) ①平成28年度事業予定について 3 (協議事項) ①平成27年事業評価について
11月8日	郷土資料館	1 (報告事項) ①平成28年度事業報告および今後の予定について ②特別展「今、よみがえる真慈悲寺」開催状況について 2 (協議事項) ①調査成果等の公開基準について
2月22日	郷土資料館	1 (報告事項) ①平成28年度最近の事業報告および今後の予定について ②平成29年度郷土資料館の事業計画について ③その他 2 (協議事項) 資料受入等の手順および手続きについて

2 古文書等歴史資料整理編集委員会

市民の教養、学術及び文化の向上を図ることを目的とし、課題について古文書等歴史資料を調査研究し、報告するため、日野市古文書等歴史資料整理編集委員会は設置されている。

委員会の委員は、古文書等歴史資料に対して優れた見識を有する者の内から教育委員会が選任し、定数は6名以内、任期は2年となっている。

(1) 委員名簿

氏名	専門分野	備考
沼 謙吉	近代史	第9期委員（平成28年4月まで）
清水 守男	近現代史	第9・10期委員
安藤 陽子	近代史	第9・10期委員
鈴木 淳世	近世史	第9・10期委員
多田 仁一	近世史	第9・10期委員
馬場 憲一	近世史	第9・10期委員
保坂 一房	近現代史	第9期（平成28年11月から）・10期委員

第9期任期 平成27年2月1日～平成29年1月31日

第10期任期 平成29年2月1日～平成31年1月31日

(2) 開催状況

開催日	会場	協議内容
7月5日	郷土資料館	1 平成28年度の資料調査事業について ①豊田山口家文書の調査について ②その他の資料調査 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 3 平成29年度の資料調査計画について 4 その他
11月22日	郷土資料館	1 平成28年度の資料調査事業について ①豊田山口家文書の調査について ②その他の資料調査 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 3 平成29年度の資料調査計画について 4 その他 5 文化財保護審議会委員との意見交換会

開催日	会場	協議内容
2月28日	郷土資料館	1 平成 28 年度の資料調査事業について ①豊田山口家文書の調査について ②その他の資料調査について ・南平体育館にある七生村・日野市役所関係行政文書（昭和 30～50 年代）の資料について ・南平佐々木家文書（寄贈）について ③マイクロフィルムのデータ化事業の進行について 2 広報「みんなのふるさとこぼれ話」について 3 平成 29 年度の資料調査計画について 4 その他

3 展示事業

(1) 企画展示

企画展名	展示期間	観覧者数
どつき土器展—初公開 万願寺・石田・上田の出土遺物—	4. 23～7. 10	472
『稲生物怪録絵巻 (いのうものけろくえまき)』パネル展	7 月～9 月	—
七生丘陵ハイキングコース 今・昔/ミニ土器展	7. 16～10. 23	516
日野の産業革命 ～レンガ・ビール・養蚕	10. 29～4. 16	788
合 計		1, 776

(2) 収蔵展示

体験学習室を整備し、リニューアルオープンを行った。

(3) 施設見学

① 学校等

月 日	学校名等	対 象	内 容	人 数
6. 30	三沢中学校	2 年	職場体験	2
7. 1	三沢中学校	2 年	職場体験	2
7. 1	東村山第五中学校	1 年	校外学習	22
7. 12	仲田小学校	3 年	社会科見学、農具体験	69
10. 4	日野第一中学校	1 年	総合学習（地域学習）	49
10. 5	三沢中学校	1 年	総合学習（地域学習）	38
10. 13	滝合小学校	3 年	社会科見学、農具体験	79
11. 8	日野第一小学校	3 年	社会科見学、農具体験	78
11. 9	わかば教室	—	展示見学	11
11. 11	平山小学校	3 年	社会科見学	87

11.29	東光寺小学校	3年	社会科見学、農具体験	87
11.29	豊田小学校	3年	社会科見学、農具体験	124
1.13	たかはた台保育園	—	どんど焼きについて（見学）	50
1.24	夢が丘小学校	3年	生活道具	58
1.25	帝京小学校	3年	生活道具、農具体験	34
2.1	日野第三小学校	3年	社会科見学、農具体験	68
2.2	旭が丘小学校	3年	社会科見学	103
2.7	日野第四小学校	3年	社会科見学、農具体験	134
2.15	潤徳小学校	3年	生活道具、農具体験	134
3.1	わかば教室	—	展示見学	6
合計	20件			1,235

② 団体

月 日	団体名	内 容	人 数
7.14	明星大学博物館学受講生	レポート作成	4
10.22	公民館分室まつり	見学者への説明	159
10.25	デイサービスさくら	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	5
10.28	学童クラブ ハロウィーン	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	38
11.26	歩こう会	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	15
12.17	八王子大和田のデイサービス	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	4
1.17	デイサービスいずみの森	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	8
1.19	デイサービスいずみの森	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	5
3.7	たましん見学	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	30
3.17	相模原市文化財調査普及員	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	4
3.29	公民館わくわく学習術	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	20
3.31	学習支援サービス	企画展及び民俗・自然収蔵展示室の見学	18
合計	12件		310

(4) 特別展『今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～』

① 観覧者数

会 期	会 場	観覧者数
9.17 ～ 11.20	新選組のふるさと歴史館	3,233

②特別展開連行事

月 日	名 称	人 数
9.24	記念式典	53
10.23	講演会「霊場真慈悲寺の誕生」 講師:佐藤弘夫氏	85
11.6	「今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～」報告会と講座	84
11.12	阿弥陀如来坐像学術調査	49
合 計	4 回	271

4 イベントについて

事業名	月 日	会 場	一般参加 数	スタッフ人数	計
たきび祭 (前夜祭ほか)	12.9・10	旭が丘中央公園	582	10	592
どんど焼き	1.11	郷土資料館	1,003	4	1,007
合 計		2 件			1,599

5 教育普及事業

(1) 体験学習会

① 自然に触れる体験学習会

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
3.11	化石でたどる大昔の日野	松川正樹氏 西田尚央氏	多摩川河川敷	23

② 農業体験講座(公民館との共同事業)

月 日	内 容	会 場	人 数
5.7～ 8.27	「親子でスイカを作ろう」5回	南平耕作地	169
9.3～ 1.21	「親子で大豆を育てて豆腐を作ろう」5回	南平耕作地・公民館高幡台分室	78
合 計		10 回	247

③ その他

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
6. 4	火起こしに挑戦してみよう！①	郷土資料館	郷土資料館	28
7. 2	火起こしに挑戦してみよう！②	郷土資料館	郷土資料館	3
7. 30	石田散葉を作ろう①ミゾソバ採集	郷土資料館	土方歳三資料館 向島用水（新井）	12
8. 27	石田散葉を作ろう②石田散葉作り	郷土資料館	郷土資料館	25
12. 10	お正月飾りを作ろう	わらざうり 保存会	郷土資料館	24
合 計	5 回			92

(2) 講座

月 日	内 容	講 師	会 場	人 数
11. 13	村絵図講座「日野用水開削 450 年記念 日野市内の用水を見に行こう」	上野さだ子氏 大窪俊彦氏	新町交流センター・市内	24
1. 22	日野用水開削450年記念 古文書で学ぶ日野の用水第1回	上野さだ子氏	郷土資料館	27
1. 29	日野用水開削450年記念 古文書で学ぶ日野の用水第2回	上野さだ子氏	郷土資料館	23
2. 12	日野用水開削450年記念 古文書で学ぶ日野の用水第3回	上野さだ子氏	郷土資料館	27
2. 19	日野用水開削450年記念 古文書で学ぶ日野の用水第4回	上野さだ子氏	郷土資料館	25
2. 26	日野用水開削450年記念 古文書で学ぶ日野の用水第5回	大窪俊彦氏	郷土資料館	26
3. 5	日野用水開削450年記念 古文書で学ぶ日野の用水第6回	大窪俊彦氏	郷土資料館	26
3. 4	「皇后様とご養蚕～紅葉山御養蚕所助手としての体験を語る」	伊藤稔氏	郷土資料館	26
3. 18	体験講座「日野市・八王子市 市境を歩こう」	今尾恵介氏 七生丘陵調査団	平山～豊田	34
合 計	9 回			238

※調査事業による講座については、各事業欄に記載

(3) 出張事業（展示及び講師派遣）

①学校等への出張授業

月 日	学校名ほか	対 象	内 容	人数
4. 26	平山小学校	6 年	生きぬく科（災害）	96
4. 26	日野第三小学校	6 年	火起こし・大昔の暮らし	73
5. 27	日野第七小学校	6 年	火起こし・大昔の暮らし	79
7. 13	平山小学校	6 年	生きぬく科（災害）	94
7. 30	日野第三中学校育成会	—	防災訓練お泊り会火起こし体験	55

9. 2	日野第八小学校	4 年	総合学習（災害）	145
10. 4	日野第一中学校	1 年	総合学習（地域学習・屋外分）	25
10. 14	平山小学校	3 年	平山季重	90
10. 22	滝合小学校	4 年	総合学習（災害）	48
11. 1	日野第七幼稚園	年長	脱穀体験	60
11. 2	夢が丘小学校	5 年	総合（展覧会での展示解説）	56
11. 17	日野第六小学校	5 年	脱穀体験	104
12. 15	日野第五幼稚園	年長	向島用水散策	63
1. 19	仲田小学校	3 年	昔の道具	69
1. 20	豊田小学校	3 年	昔の道具	123
1. 26	潤徳小学校	3 年	昔の道具	160
1. 27	日野第五小学校	3 年	昔の道具	104
1. 31	日野第八小学校	3 年	昔の道具	118
2. 3	南平小学校	3 年	昔の道具	94
2. 9	七生緑小学校	3 年	昔の道具	82
2. 10	日野第三中学校	1 年	総合学習（職業）	30
2. 13	七生緑小学校	全学年	朝会（勝五郎生まれ変わり物語）	473
2. 14	平山小学校	3 年	昔の道具	82
2. 16	日野第七小学校	3 年	昔の道具	97
2. 23	滝合小学校	3 年	昔の道具	70
合 計			25 件	2, 490

※調査事業関連の出張授業は各事業欄に記載

② その他

月 日	内 容	会 場	人 数
10. 15	平山季重まつりパネル展	平山小学校	450
11. 13・14	桑ハウス公開時の資料展示（産業まつり）	仲田の森蚕糸公園	785
1. 20～2. 13	パネル展「ピンヘッド山と外来生物」	京王線高幡不動 駅南北自由連絡 通路	316 (確認数)
2. 4～3. 12	百草・倉沢地区の歴史野外パネル展	京王百草園	1, 593
合 計	4 件		3, 144

(4) レファレンス事業

項 目	件 数
電話・Eメール・手紙などで寄せられた質問 に対する調査回答	168

6 所蔵資料活用事業

(1) 資料のデータ化事業

項目	内容
マイクロフィルムのデジタルデータ化及び 目録作成作業	23,000 コマ

(2) 資料の貸出事業

主な貸出先	資料	目的
日野第三小学校・日野第四小学校、日野 第五小学校、滝合小学校、程久保小学校	糸車	国語「たぬきの糸車」
平山小学校、滝合小学校、日野第四小学 校	昔の道具及び農具	3年及び5年授業
産業振興課	唐箕	蕎麦や麦の脱穀
三中地区青少年育成会	竹伐りノコ、鉋、 ナイフ	防災お泊り会のため
羽村市郷土博物館	アケボノゾウ切 歯、クジラ類骨格	企画展「羽村と周辺地域の化 石」に展示するため
日野宿発見隊	大小の網、容器	行事「用水であそぼう」開催 のため
まんがんじ児童館、公民館	草とり・足踏み脱 穀機・ふるい・唐 箕・くるり棒・扇 風機などの農具	田の草取りと脱穀のため
七生支所	各種展示パネル	七生支所利用者へ地域のこ とを知ってもらうため
生涯学習課	養蚕関係資料一式	桑ハウス公開に伴う展示の ため
件数		25

(3) 資料の撮影・閲覧 概要

資料内容	目的
実物資料の閲覧（稲生物怪録絵巻、旧日野桑 園第一蚕室関係）	卒論作成、保存活用計画作成
写真の提供	テレビ番組、博物館・銀行内展示、研究書・ 論文・新聞、広報誌掲載ほか
件数	25

7 資料収集保存・調査事業

(1) 資料収集保存事業

項目	内容	件数等
資料寄贈・寄託	寄贈（雪印メグミルク工場プレート、渡賃金表ほか）	9件
資料購入	糸車（体験用）	1点
収集資料の整備ほか	民具の補修、農具体験及び脱穀体験の補助及び民具整理補助（37回）	111人
資料修復	大正15年日野町全図	1点

(2) 調査事業

① 幻の真慈悲寺調査事業

区分	事業名	内容	回数	人数
普及	ガイド・解説	特別展解説ガイド	56	180
		真慈悲寺現地イベント 東京都文化財ウィークに伴う阿弥陀如来公開解説ガイド	1	3
		百草・倉沢地区の歴史野外パネル展解説ガイド	16	32
	特別展関係	特別展準備・講師・DVD編集	20	154
	ブックレット編集ほか	百草・倉沢地区歴史ガイドブック	19	200
	野外パネル展	百草・倉沢地区歴史野外パネル展準備	9	155
	現地イベント	小学校教育研究会・歴史散策の会・その他	1	170
環境整備	その他	真慈悲寺調査研究センター整備・総会	2	29
自主活動	真慈悲寺ボランティア自主活動	真慈悲寺調査ボランティアの自主活動 歴史散策	10	111
刊行物の発行		真慈悲寺解説リーフレット発掘調査特集号 1,000部 真慈悲寺解説リーフレット改訂 1,000部 百草周辺の歴史散策ガイド 3,000部 特別展「今、よみがえる真慈悲寺～幻の大寺院を追い求めて～」リーフレット 4,000部、真慈悲寺調査報告書 300冊、 百草・倉沢地区歴史ガイドブック 500冊		
合計			134	1,034

② 勝五郎生まれ変わり物語調査事業

内 容	日 時 ほか	人 数
例会	毎月第二水曜日午後 (13回)	196
総会	5.11	15
公開講演会	5.15 講座 田村正彦氏「子供の魂の行方—生まれ変わりと六道輪廻—」 会場：郷土資料館	32
出張展示・講座	5.17 明星大学出張授業	20
	5.24 明星大学出張授業	20
	5.29 日本心霊科学協会見学会	13
	7.4 潤徳小学校ひのっち	54
	7.24 夏休み子ども講座	54
	10.12 多摩大学出張授業	154
	10.23 中央大学ホームカミングディ	—
	2.13 七生緑小学校	459
記念行事	10.10 第8回藤蔵・勝五郎生まれ変わり記念日講演会 「幽冥文学談義～平田篤胤から水木しげるまで～」 講師：東 雅夫氏 会場：高幡不動尊	230
調査活動	函館（勝五郎の家族調査）2回	3
	横浜開港資料館調査 4回	8
	八王子市法務局	1
	横浜市立図書館	2
	森澤國夫家	2
	新宿区法正寺	15
その他の活動		40
刊行物の発行	小宮家墓地（藤蔵墓所）の案内リーフレット（5,000枚） 子ども向けリーフレット（2,000枚）	
合 計		1,318

③ 七生丘陵調査事業

活動内容	回 数	人 数
定例会（11回）・総会（1回）	12	120
七生丘陵の自然観察、散策コース確認など屋外活動	26	149
写真データの整理・標本管理など屋内での調査・研究活動	7	30
パネル展示「パネル展「ピンヘット山と外来生物」（京王線高幡不動SC南北自由連絡通路）の設置・撤去作業と巡回（1.20～2.13）	27	38
「日野市・八王子市 市境を歩こう」参加者への案内	1	12
合 計	73	349

④ 古文書調査事業

ア 日野の古文書を読む会との協働

内 容	回 数	人 数
古文書整理（豊田 山口家文書）	20	111
古文書の解説（日野の千人同心関係史料）	43	394
編集会議（日野の千人同心関係史料）	21	64
合 計	84	569

イ その他の調査事業 増田家（川辺堀之内）、平家、佐々木家（南平）など

⑤ その他

項 目	内 容
文化財緊急調査	平山鮫陵源跡地、南平王子権現など

8 東京都博物館協議会・東京都三多摩公立博物館協議会

(1) 東京都博物館協議会

総会及び見学研修会の開催

○第1回総会及び第1回見学研修会

平成28年(2016年)7月27日 会場：東京都国立近代美術館
(総会・見学研修会)

研修 テーマ：「開催中の展覧会について」

○第2回総会及び第2回見学研修会

平成29年(2017年)3月1日 会場：国立科学博物館
(総会・見学研修会)

研修 テーマ「ICOM 24th General Conference(第24回国際博物館会議大会)
参加報告」

見学会 国立科学博物館常設展並びに企画展「花粉と花粉症の科学」
企画展「理化学研究所百年—お弁当箱(アルマイト)からニホニウム
まで—」

(2) 東京都三多摩公立博物館協議会

①定期総会

平成28年(2016年)5月25日 会場：多摩六都科学館

②協議会

平成28年(2016年)10月27日 会場：東浅川保健福祉センター

③研修会

第1回 平成28年(2016年)10月6日 会場：帝京大学総合博物館

第2回 平成28年(2016年)12月14日 会場：武蔵野ふるさと歴史館

+<参考資料>

Ⅱ 日野市郷土資料館の運営状況の評価実施要綱

平成21年3月31日制定

(目的)

第1条 この要綱は、博物館法（昭和26年法律第285号）第9条の規定する、日野市郷土資料館の運営の状況に関する評価の実施に関し、必要な事項を定めるものとする。

(点検及び評価の対象)

第2条 日野市郷土資料館（以下「資料館」という。）は、毎年1回、資料館の運営状況について評価を行う。

(評価の方法)

第3条 資料館は、資料館協議会の意見を聞きながら、評価を行うものとする。

(教育委員会への報告書の提出)

第4条 資料館は、評価に関する報告書を毎年度作成し、教育委員会に提出する。

(評価結果の公表)

第5条 資料館は、評価の結果を市民に公表する。

(評価結果の活用)

第6条 資料館は、評価の結果に基づき、その運営の改善に努めるものとする。

(庶務)

第7条 評価に関する庶務は、資料館資料館係において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、この要綱の施行に関し必要な事項は、資料館長が別に定める。

付 則

この要綱は、平成21年4月1日から施行する

<参考資料>

Ⅲ 第6期日野市郷土資料館協議会委員名簿

番号	氏名	備考	期
1	杉浦忠機 (委員長)	社会教育の関係者 (自然環境体験指導)	6
2	小杉博司 (副委員長)	学識経験者 (郷土教育研究)	2
3	上野さだ子	学識経験者 (歴史・古文書研究)	6
4	保坂一房	社会教育の関係者 (多摩の地域史研究)	1
5	畠山 豊	社会教育の関係者 (民俗学・博物館学)	1
6	平 自由	社会教育の関係者 (考古学・博物館学)	1
7	秋山讓児	学校教育の関係者(平山中学校校長) (任期 平成29年3月31日まで)	6
	須藤昭人	学校教育の関係者(七生中学校校長) (任期 平成29年4月1日から)	1
8	池田泰章	学校教育の関係者(仲田小学校校長)	2
9	都 美里	公募市民	2
10	山口久夫	公募市民	2

任期 平成28年3月4日～平成30年3月3日

平成29年度日野市郷土資料館の
運営の状況に関する評価書
(平成28年度事業)

平成29年9月

日野市郷土資料館

〒191-0042

東京都日野市程久保550番地

電話 042-592-0981

FAX 042-594-1915